

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

平家物語武器談

伊勢平藏貞丈著

一 大兵衛尉家貞丈の者ありし寸阿との物也たりしなり
おとつ子板巻紙は弦袋付は太刀振とて解上子
小庭ふかーしつりしものけり

- うまめとけ物也茶と白めとの物也子同
- しんおとけ物也茶と白めとの物也子同
- 弦袋今弦巻とて物なり今世は袋とて物なり
- 袋物とて物なり袋は紐の物なり弦袋は
- 太刀の物なり物なり物なり物なり物なり
- 成弦巻とて物なり物なり物なり物なり物なり

目下あるの如くおしりんの誤りあり

一 観音坊の黒糸おとりの孫巻子白柄の長刀のきみ一子取
物に坊のしんおとりの子鏡忌おとりの子冬口持て

○ 黒糸おとりの孫巻子おとりの子鏡忌おとりの子冬口持て

○ 白柄の長刀の柄成白糸おとりの子

○ おとりの子冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

一 唱其日の装束山おとりの子冬口の長刀の柄成白糸おとりの子
鏡忌おとりの子冬口の長刀の柄成白糸おとりの子
冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

○ おとりの子の装束山おとりの子冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

地おとりの子の装束山おとりの子冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

○ 織田の天子おとりの子冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

其外の文おとりの子冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

維家曝鞠塵おとりの子冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

○ 小振成草おとりの子冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

○ 冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

て地おとりの子

○ 冬口の長刀の柄成白糸おとりの子

○ 白羽の摺り紙白羽あり帯をきたる志くき白羽
おか

○ かみ成ぬいしりあひのきりきり曾成ぬきり曾のきりきり

○ 一で曾の流しあひのきりきり一で曾の流しあひのきりきり
出れ流しあひのきりきり一で曾の流しあひのきりきり

○ 小松の大臣の如き一は突とよて流しあひのきりきり
特盛の如き小松の如き一は突とよて流しあひのきりきり

○ なま一は突とよて流しあひのきりきり
盛一は突とよて流しあひのきりきり

○ 其直衣の形の装束は國式に依りて

○ 子留の如き 市松の如きあり小松の如きあり

○ 衣の如きあり一は突とよて流しあひのきりきり

○ 小松の如きあり一は突とよて流しあひのきりきり

○ 一は突とよて流しあひのきりきり

○ 一は突とよて流しあひのきりきり

○ 一は突とよて流しあひのきりきり

○ 一は突とよて流しあひのきりきり

○ 一は突とよて流しあひのきりきり

○ 一は突とよて流しあひのきりきり

○ 一は突とよて流しあひのきりきり

みしちり成の白紙大紙をくくくを志し柄の口がく
うけてる柄を

○ 志し柄の口は志紙を志しめ

一 志紙の入道は——志紙の柄は直書系紙に

版巻紙金物より用する柄板を

○ 志紙の柄の直書系紙を志しめ

○ 白金物の志紙は志紙の柄を志しめ

○ 柄板を志しめは志紙の柄を志しめ

○ 志紙の柄を志しめは志紙の柄を志しめ

○ 志紙の柄を志しめは志紙の柄を志しめ

○ 志紙の柄を志しめは志紙の柄を志しめ

一 版巻の上より志紙の柄を志しめは志紙の柄を志しめ

の金物の口より志紙の柄を志しめは志紙の柄を志しめ

長成りより志紙の柄を志しめは志紙の柄を志しめ

○ 柄板の金物版巻は志紙の柄を志しめ

一 大臣葬の所用は志紙の柄を志しめ

○ 大臣葬の所用は志紙の柄を志しめ

文を志しめは志紙の柄を志しめ

草紙も文を志しめは志紙の柄を志しめ

らるる志しめは志紙の柄を志しめ

一 廳のち部の件ふ令武と云た方の劉の者りよ自身振尾

と云て同元の三枚曾み緒とめ

○ 故着自ひの半前と云るぬ

○ 三枚のふら志ころ三枚好おといふ

一 ^{四十六} 信連のその海の家来ふら其ゆとみ物每みりふら

とひの振巻成意て清府のたり成毎といふら

○ うすゆ成の物衣前よと云たり

○ ともいひもあふと云ら

○ 清府のたりの意候ふと云たり

一 ^{四十七} 伝連は其成とて物衣の帯を引きて控ふと云る清府

のちり好まとも身取のわらへたり成指合と

○ 清府のたりの好まとも身取のわらへたり成と云

ハ衛府のたりの儀刀とて只をさかりしと云る

好まともお好り伝連は武曾此志ゆと云る身取は

わらへたりお成りて清府はたりのわらへたり

一 ね文の物衣と云るは

おおとの履とて早白のかみの緒成と云る物作りの

たりの法帯也といふは中道の矢負流口は骨法忘れ

一 ちやあまの羽衣といふはけしめ矢一と云る法たり

○ お文の物衣といふはあまの羽衣帯といふは矢を織成

○ 世變よりなる色々小色成文として文成織打成り
 あり〜
 菊七色の色々〜
 物衣子袖の〜
 その水干の〜
 如〜
 一〇 兼界〜
 一〇 気成〜
 一〇 公界〜
 一〇 大巾思意法〜

一 宗丹坊の何雲紫唐色を存せり〜

残る大なりなり常たははしり白挿長口残とら
杖つよ

○ 藤黄白ひ常たえたり

○ 赤かひる方も云く成色く成入のりや

○ 白挿の長口前ふり

○ 草ふりまなれり

○ 白挿の長口前ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

○ 長緒の環ふり

かぶ成ぬ〜と教政の〜かぶ成ぬ〜
是の人の事なり

一 筒井に済妙の書から〜の書〜
若くは教かぶ〜の成ぬ〜の書志の〜
是の書の矢直を藤の〜好む白柄の〜
〜藤も〜
竹柄成〜

○ かぶの〜
○ 是年お〜
○ 是志の〜
○ ぬ〜
○ 白柄の長口も〜

○ つ〜ぬよ〜
一 是利其具は茶碗の竹葉の縁の〜
若くは席の打たぬかぬ〜
常亦は〜
是なる馬の梅も〜
是〜

○ 竹葉の半常子記〜
○ 是年お〜
○ 是年お〜

○ 寺の形たるかや 愚鈍ふ記しぬ

○ 金作りみ大方あふ記しぬ

○ ともくみ矢きと藤のうらむあし記しぬ

○ 柏木ふまはし 打たる金ぬくしんの執事記しぬ

淡子記しぬ

源丈史お友忌綱が緋比の錦の車窓に於て威の獲る

小月危のさるふ金ぬくしんの執事記しぬ 以命也

いふ大方お割の去る美白ひの獲るやと好書の花とぬ

○ 緋比の錦の車窓あし記すか子細記しぬ

○ かしめあつたぬ獲る法ふ記しぬ

○ 金ぬくしんの執事記す好書瑞の上ふ記しぬ

○ めいし白ひの獲る及書ける花とぬ

○ 衣代のさる好書唐年といふ獲るかふ入てかきり

る及びふ花記の錦と記すもふひの白ひの獲る

連銭河を好むるふ金ぬくしんの執事記す

副將軍所曆も忠及緋比子錦と好書記す

威の獲るも好むるふ記すたしぬ

くしぬ

○ 唐年の獲るも記す

○ かしめあつたぬ好書唐年といふ入てかきり

○ けり 唐榘、是竹たる桂坊
 ○ 赤地の錦に直に赤を白ひの鏡金で〜
 鞠河までも赤〜
 ○ 緋地の錦に赤を白ひの鏡金で〜
 ○ けり 地の〜
 一 今度の櫻は午正盛、若野馬、源氏鏡と討の坊、
 出雲國へ下向し創とて錦斗格の織ふ今、
 首ふ〜

との〜
 の〜

一 坂の紅葉水々〜
 後見二成〜
 結成〜
 赤の〜
 ○ の〜
 青〜
 ○ けり 地の〜
 ○ けり 地の〜
 の〜

一 實の... からの... 相... の... 細... 紙...

○ からの... 系... の... 紙... 小... 紙... 紙...

一 符... の... 紙... 紙... 紙... 紙...

○ 紙... の... 紙... 紙... 紙... 紙...

一 本... 其... 紙... 紙... 紙... 紙...

直を糸のうら服と云ふか小糸股脱てゐる細ふけ
十節蔵人行家の緋比の錦花をくわはる糸糸作
鏡をてまゝつゝ大り成帯甚えぐる大志申子有
ぬり糸糸のうら服と云ふか小糸股脱てゐる
緋で帯をのひもる

一 世糸のあゝ何とも帯もさへたり
一 平大綱云時世の御云と云は袴にうらひのさへ
急にうらひ

○ ちんちんの袴を洋々といふは深成下や海川
小糸糸と云ふ糸のうらひと云ふ細糸糸といふ糸の
形のさへ細く細くうらひと云ふ深成と云ふ糸の

○ いとくらの直糸糸帯の中帯布の事なり
是も或は糸のうらひ 今昔袴といふ糸帯の
糸のうらひなり

一 二浦介の日記がうらの直糸糸帯の種と云ふは
大り成帯亦はえたることなり糸糸有る糸糸のうらひと
いふはかゝると取てゐる細ふけ腰成かゝる院
成信取まるといふ

○ 世條のふくあふくたり
妹尾の燈籠風とがらの虫糸糸の由一或は右の糸糸
つゝ成かゝる糸糸腰をいふは月と云ふ糸糸

少くもかきおのり都谷共勢部子余人

○ 山は同様にしる只藤お成とふりし

○ 高野の藤お成の字なりし竹之を成しお成

藤お成事といふ所は同成の藤お成といふ

根よふしりし藤お成といふ

或人のいふ竹之をいふ藤河細之藤といふ

藤お成といふ藤人好む藤お成といふ世のよめ

一又一説は藤お成といふ藤の矢成といふ藤お成

○ 藤お成といふ藤お成といふ藤お成といふ藤お成

藤お成といふ藤お成といふ藤お成といふ藤お成

藤お成といふ藤お成といふ藤お成といふ藤お成

藤お成といふ藤お成といふ藤お成といふ藤お成

藤お成といふ藤お成といふ藤お成といふ藤お成

○ 藤お成の藤お成といふ藤お成といふ藤お成

○ 藤お成の藤お成といふ藤お成といふ藤お成

○ 藤お成の藤お成といふ藤お成といふ藤お成

藤お成の藤お成といふ藤お成といふ藤お成

藤お成の藤お成といふ藤お成といふ藤お成

藤お成の藤お成といふ藤お成といふ藤お成

一 石部が船で江を渡るに似て、一帯で軍陣に出る

○ 廿条子細

一 豊後の石部系長木部北の直宗が、
供奉をもちたりと云ふ

○ 山部系北の直宗が、
供奉をもちたりと云ふ

九十九

一 長谷川が、
供奉をもちたりと云ふ

○ 長谷川が、
供奉をもちたりと云ふ

○ 長谷川が、
供奉をもちたりと云ふ

一 東國の武士と云ふ、
供奉をもちたりと云ふ

○ 東國の武士と云ふ、
供奉をもちたりと云ふ

○ 東國の武士と云ふ、
供奉をもちたりと云ふ

○ 東國の武士と云ふ、
供奉をもちたりと云ふ

○ 東國の武士と云ふ、
供奉をもちたりと云ふ

一 義経其日女が、
供奉をもちたりと云ふ

○ 義経其日女が、
供奉をもちたりと云ふ

○ 義経其日女が、
供奉をもちたりと云ふ

○ 義経其日女が、
供奉をもちたりと云ふ

○ 義経其日女が、
供奉をもちたりと云ふ

○ 義経其日女が、
供奉をもちたりと云ふ

とらふは笑を録のり常に記しぬ

○紫とらふは禮忌後小記しぬ

○りの多打の巾紙紙を原より一寸半切てたるは

小巻にのりし今より大なる軍中よりしるす

盛衰記の存あり紙と切てりの多打の程と見

是をを定たりしよりいふたより大なる軍中より

打紙紙よりしるす一とふ法式もくすは我經法軍

勢小きしぬぬ紙よりしるす一とふ法式もくすは

る一懐柔備ゆは湯府の官人の持り搦と白檀

紙は極多し一とふ法式もくすは我經法軍

様と色よりしるすは深の世事成るなりは

の志し小巻にのりし一とふ法式もくすは

打紙をくすは我經法軍の志し小巻にのりし

とらふは一とふ法式もくすは我經法軍

一木乃及其の仕業成るなりは深の世事成るなり

とらふは一とふ法式もくすは我經法軍

其の志し小巻にのりし一とふ法式もくすは

かたりしるすは一とふ法式もくすは我經法軍

鬼河系先と云馬の金ぬしは一とふ法式もくすは

たしき

○ 世来のふく何事もあはれなり

○ 川上りの矢も後ふれぬ

一 桐口のひき糸の縁人たりし顔ぶりの体とんまきねは

さかきめいさうは世業のまきねはしるは流されき

○ 何れもくの時業のまきねは

一 白河をりる老馬のまきねはまきねはしるは流されき

とんまきねはしるは流されき

かたき

○ かみねあはれなり

○ 白河をりる老馬のまきねはまきねはしるは流されき

あはれなり

一 然るも夜の装束ふかからの世業のまきねは

まきねはしるは流されき

業たりも子も小の世業のまきねは

たかきねはしるは流されき

好家馬のまきねはしるは流されき

あふれしるは流されき

○ からし世業のまきねはしるは流されき

小梅のまきねはしるは流されき

一 越中次郎盛成攻好む装束もまた小村濃の意あり
赤糸威の積りて鉄形つたつたのち子端をよめ令作の
ちり成帯世にうたふるの多直き積のう勝ふ
うし連銭を好む馬ぶ指輪の鞍もてうたふるも

○ 小村濃はあしの村濃好む小の飯子けり緋村濃
あまこくたう世外のおく留あまこくたう

一 馬ぶ意らてけり成まよふ杖突して甲冑森の逢成
あ成のけりて世の内へ入らむも

けりてあ成のやうの蘭草を地つたうとあ
けりてあ成の地つたうとあ

一 ちりての積りて月をけり馬ぶ意地つたうの鞍もて
糸たりき武者一騎——人見はあ

一 赤糸の品々留あまこくたう
後磨やあ成——緋地の積のちりて赤糸威の積

ちりてあ成の馬のぬらしたうとあ
糸もあ成のちりて

○ 赤糸はあ成の留あまこくたう

一 赤三役中將守衛強か——から小直意好む赤成
ちりてあ成の村子も積りてあ成の積りて
鉄形はあ成のちりてあ成の積りてあ成の積りて

唐色ふに夜かぶりの緒成

○ 如糸のあゝ糸よとくをさう

一 昔希其以古斗の男やうからと高比の禊をたむくひ
禊神をくたむをいまのいふにたて置きて是のた
り成常本にたふさうふの矢ありと切ふた初るは羽割合
てまゝいふまゝぬいぬの禊神をいふ流るは流るのり取
禊の曾成取して思ふに十割の女の糸糸を

○ からと高比の禊神をいふからと高比の禊をたむくひ
糸かからうから布を結の糸をいふからと高比の禊を
直成の神は禊神の神の糸は禊神の神

○ うき切ふにうきぬの糸をいふからと高比の禊を
ぬいぬの糸をいふからと高比の禊をいふからと高比の禊

○ 角成ぬにうきぬの糸をいふからと高比の禊をいふ
○ 是白れを力高比の糸をいふからと高比の禊をいふ

一 是の馬のたゝ是の糸をいふからと高比の禊をいふ
禊神をいふからと高比の禊をいふからと高比の禊をいふ

○ 令ぬにうきぬの糸をいふからと高比の禊をいふ

一 たゝくはる糸の糸をいふからと高比の禊をいふ

ふきとも^{カキ}年^{カキ}の清令^{カキ}の習^{カキ}るも^{カキ}わ^{カキ}く^{カキ}る^{カキ}の^{カキ}日^{カキ}の^{カキ}中^{カキ}も^{カキ}好^{カキ}く

○ 清^{カキ}に^{カキ}し^{カキ}ら^{カキ}う^{カキ}の^{カキ}事^{カキ}は^{カキ}く^{カキ}わ^{カキ}ら^{カキ}る^{カキ}也^{カキ}ト^{カキ}た^{カキ}る^{カキ}者^{カキ}お^{カキ}も

かり^{カキ}也^{カキ}は^{カキ}い^{カキ}ふ^{カキ}る^{カキ}も^{カキ}云^{カキ}万^{カキ}葉^{カキ}集^{カキ}子^{カキ}清^{カキ}執^{カキ}の^{カキ}梓^{カキ}り^{カキ}と

書^{カキ}て^{カキ}み^{カキ}と^{カキ}り^{カキ}の^{カキ}何^{カキ}の^{カキ}事^{カキ}も^{カキ}も^{カキ}或^{カキ}統^{カキ}と^{カキ}夫^{カキ}空^{カキ}

の^{カキ}具^{カキ}多^{カキ}羅^{カキ}樹^{カキ}の^{カキ}長^{カキ}と^{カキ}七^{カキ}尺^{カキ}守^{カキ}め^{カキ}り^{カキ}て^{カキ}う^{カキ}と^{カキ}同^{カキ}ら

也^{カキ}ら^{カキ}成^{カキ}た^{カキ}り^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}の^{カキ}後^{カキ}と^{カキ}統^{カキ}る^{カキ}事^{カキ}根^{カキ}系^{カキ}も

具^{カキ}多^{カキ}の^{カキ}樹^{カキ}の^{カキ}成^{カキ}り^{カキ}は^{カキ}清^{カキ}タ^{カキ}ラ^{カキ}シ^{カキ}ト^{カキ}の^{カキ}説^{カキ}と^{カキ}り^{カキ}事^{カキ}

と^{カキ}云^{カキ}以^{カキ}譯^{カキ}名^{カキ}義^{カキ}集^{カキ}子^{カキ}多^{カキ}の^{カキ}樹^{カキ}長^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}九^{カキ}十^{カキ}と

と^{カキ}も^{カキ}又^{カキ}云^{カキ}サ^{カキ}七^{カキ}尺^{カキ}と^{カキ}も^{カキ}云^{カキ}下^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}り^{カキ}た^{カキ}る^{カキ}も^{カキ}

ナ^{カキ}一^{カキ}天^{カキ}竺^{カキ}と^{カキ}り^{カキ}も^{カキ}口^{カキ}十^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}も^{カキ}樹^{カキ}集^{カキ}の^{カキ}年^{カキ}の^{カキ}生^{カキ}也^{カキ}

一 義盛界り出^{カキ}て^{カキ}白^{カキ}旗^{カキ}一^{カキ}流^{カキ}の^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}海^{カキ}子^{カキ}の^{カキ}幾^{カキ}か^{カキ}十^{カキ}六^{カキ}騎^{カキ}

皆^{カキ}白^{カキ}装^{カキ}束^{カキ}ふ^{カキ}山^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}て^{カキ}記^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}る^{カキ}

○ 無^{カキ}束^{カキ}子^{カキ}細^{カキ}も^{カキ}一^{カキ}

一 宣^{カキ}時^{カキ}其^{カキ}日^{カキ}に^{カキ}装^{カキ}束^{カキ}ふ^{カキ}山^{カキ}の^{カキ}束^{カキ}茶^{カキ}北^{カキ}の^{カキ}直^{カキ}意^{カキ}の^{カキ}洗^{カキ}草^{カキ}の^{カキ}よ^{カキ}ら^{カキ}ひ

と^{カキ}云^{カキ}て^{カキ}印^{カキ}名^{カキ}子^{カキ}衆^{カキ}と^{カキ}り^{カキ}て^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}て^{カキ}い^{カキ}ふ^{カキ}也^{カキ}

○ 中^{カキ}に^{カキ}ら^{カキ}し^{カキ}比^{カキ}の^{カキ}直^{カキ}意^{カキ}あ^{カキ}ら^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}る^{カキ}

○ 洗^{カキ}草^{カキ}の^{カキ}よ^{カキ}ら^{カキ}ひ^{カキ}束^{カキ}茶^{カキ}北^{カキ}の^{カキ}直^{カキ}意^{カキ}の^{カキ}洗^{カキ}草^{カキ}の^{カキ}よ^{カキ}ら^{カキ}ひ

一 白^{カキ}旗^{カキ}子^{カキ}衆^{カキ}の^{カキ}相^{カキ}白^{カキ}旗^{カキ}の^{カキ}相^{カキ}割^{カキ}合^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}り^{カキ}た^{カキ}矢^{カキ}の^{カキ}十^{カキ}二^{カキ}騎^{カキ}

休^{カキ}め^{カキ}り^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}る^{カキ}也^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}る^{カキ}一^{カキ}束^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}り^{カキ}お^{カキ}の^{カキ}ナ^{カキ} 和^{カキ}山^{カキ}と^{カキ}云^{カキ}る

平に我盛の事を書けり

○ 昔巻の事を書きし東鑑の口をとりて

○ 是の口をとりて

○ 是の口をとりて

て書けり

○ 昔巻の事を書きし東鑑の口をとりて

○ 白雲の山等の屋敷にて作られたる

○ 小の事は一書牛おのそ伊豫國の住人仁井紀

親清の事には

○ 是の事子細に

○ 是の事子細に

○ 義盛の具足

○ 義盛の具足

○ 義盛の具足

一 教經の事

○ 教經の事

○ 教經の事

○ 教經の事

一 大臣の事

○ 大臣の事

○世系武家小伝

一 檀の浦に生捕りしをとりて其時人の者も如

白く直衣半袴の赤袴小志の侍と云ふは

○世系武家小伝

一 上作坊其日其家系小志の侍と云ふは

志田の侍と云ふは

○志田の侍と云ふは

我師範國書記徳全羊中

か平侍也後之の侍

安齊叢書卷第二十七

源平盛衰記武器談 伊勢平藏貞丈著

二四

一家貞ハ布衣ノ下ニ萌黄ノ腹巻衛府ノ太刀佩烏帽

子引入袖纈シテ一子息平六家長ハ 布衣ノ下ニ

○萌黄の腹巻ハ

○紫威ハ紫草威ハ紫系威ハ

○赤銅作りハ

一 観音坊勢至坊ト云悪僧アリ三枚皮威大荒目鏡草摺長シヤシ

○三枚草の大荒目長袴小記